

<様式>

学 校 名	山形市立金井中学校	校 長	佐藤 朋子
	山形市陣場三丁目12番25号 TEL (023)681-8474 FAX (023)681-6624	研究主任	奥山 千晶
研 究 主 題	よりよく生きるために共に考え抜く生徒の育成（2年次） ～ICTを効果的に利活用する授業づくりを目指して～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、「自ら学び 共に生きる 心豊かでたくましい生徒」という教育目標のもと、「自ら学び、考えを深めることに楽しさを感じる生徒」「共に歩む仲間とよりよい関係を築こうとする生徒」「自他のいのちを尊び、目標に向かい、たゆまず努力できる生徒」を目指して、日々の教育に取り組んでいる。</p> <p>令和3年度研究した「確かな学び」を育む授業づくりでは、「仲間とともに高め合う」工夫を取り入れながら、授業改善に取り組んだ。</p> <p>昨年度は、その対話的な学びの場面で得た知識・技能に、自分の知識・技能を関連づけて更に熟考し、問題解決に向かうための「考え抜く」姿勢を培ってきた。その際、「仲間と共に」「教師と共に」「書籍や ICT 機器で得られた情報と共に」など、たくさんの手段を使いながら粘り強く思考し続け、深い学びを獲得できる生徒の育成を目指した。</p> <p>また、昨年度より委嘱された情報教育推進校として、生徒の情報活用能力向上と教員の ICT 機器活用力向上を図ってきた。個別最適で協働的、探究的な授業づくりをする上で、ICT 機器の利点をどう活かせるか、並行して研究していくこととなった。</p> <p>この目まぐるしい変化を伴う予測困難な現代社会の中でも、自分のいのちを輝かせながら、たくましく、よりよい人生を歩めるように様々な思考ツールを駆使しながら、あきらめずに「共に考え抜く生徒」の育成を目指し、本研究主題を設定した。</p>		
研 究 の 目 標	<ul style="list-style-type: none">・生徒が意欲的に取り組もうとする魅力的な単元課題、基本事項の定着や様々な考えを引き出す工夫、思考を広げたり深めたりする問いかけや働きかけを行うことで、最後まで粘り強く考え抜こうとする生徒を育成する。・ICT 機器の利用で課題を明確に提示したり、思考や理解の定着を効率的に図ったり、対話的な学びの場を効果的に設けたり、思考時間を十分に保障したりできるような活用を向上させる。・生徒につけたい8つの力（粘り強く取り組む力、プレゼン力、ICT 活用力、対話力、判断力、かかわる力、感謝できる力、やり抜く力）がついたゴールはどんな姿なのかを「資質・能力系統表」にまとめ、全職員と生徒で目標の共有化を図り、評価につなげる。		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究の内容</p>	<p>これまで本校で研究してきた「確かな学び」に向けた授業改善を土台に、ICT 機器を効果的に活用しながら、「共に考え抜く」姿勢を育てられる授業の実現について5つの項目を研究する。</p> <p>(1)主体的な学びに導く単元構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で単元ごとにつけたい力を明確にし、「単元を貫く学習課題」を設定する。 ・「単元を貫く学習課題」解決に迫る「学習課題」を毎時間設定し、学習活動を仕組む。 ・「単元を貫く課題」や毎時の「学習課題」は生徒にとって必要性があり、魅力的でいろいろな側面から切り込める課題を工夫する。 <p>(2)協働的な学びに導く学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な反応に柔軟に対応し、協働的な学びにつなげられる発問の工夫をする。 ・ICT 機器を活用し、協働して解決できる「学習課題」や「学習活動」を設定する。 ・ICT 機器の利点である「思考の繰り返し」「瞬時の共有化」「思考の可視化」「個別最適化」などができる活動場面を設定する。 <p>(3)次の学びにつながる振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時の振り返りを蓄積し、単元終末では自己の学びや課題など自己変容が見えるような活動を工夫する。 ・単元ごとに自分が「できた」「わかった」ことを明確にすることで次の意欲につなげる。 <p>(4)プロジェクトチームでの ICT 活用の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業活用チーム」「授業以外の学習活用チーム」「校務等活用発信チーム」でそれぞれ解決すべき課題に取り組み、全職員で共有していく。 <p>(5)「資質・能力系統表」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会や校内研修会を通し、学年ごとに「ゴールの姿」を考え更新していく。 ・目指す姿を実現させるための授業づくりに力をいれていく。 ・完成させた「資質・能力系統表」は全職員と生徒で共有し、アンケートや自己評価を通して常に意識化させていく。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究の方法</p>	<p>(1)研究推進委員会で研究について話し合い、全職員と共有しながら研究を行う。</p> <p>(2)各教科における「目指す生徒像」「見方・考え方」を明確にし、年間計画を元に各単元の「単元を貫く学習課題」を教科部会で、随時検討、改善を加えていく。</p> <p>(3)各教科部会で指導案検討や授業改善、ICT 機器操作研修を適宜行う。</p> <p>(4)全職員が一人1授業を行い、各教科部会で授業参観や事前事後検討会を行う。</p> <p>(5)校内授業研究会では道徳と3教科の提案授業を行い、全職員が参観の上、事後検討会を分科会形式で行う。</p> <p>(6)ICT 機器操作研修会として、全体研修会や教科部会を使ったワンショット研修会を行い、全職員の ICT 活用力向上を図っていく。</p> <p>(7)年2回（7月、12月）の生徒アンケート、職員アンケートから成果と課題を共有し、授業改善や次年度の研究につなげていく。</p>

研究
の
計
画

4月6日	職員会議（今年度の校内研究について概要説明）
6月～12月	一人1授業実践（教科部会で実施し全員が参観する）
6月1日	第1回校内研修会（情報教育推進校としての役割）
6月27日	第2回校内研修会（共に考え抜く生徒を育成するための授業づくり）
7月10日	学力向上支援チーム学校訪問①
7月19日	第1回校内授業研究会（道徳、国語）
7月下旬	生徒アンケート実施①
10月10日	第2回校内授業研究会（道徳、理科、保体）、学力向上支援チーム学校訪問②
12月下旬	生徒アンケート実施②、職員アンケート
1月末	各教科で研究のまとめ作成
2月8日	学力向上支援チーム学校訪問③
2月中旬	第3回校内研修会（今年度の研究のまとめと来年度の校内研究について）
3月旬	「研究と実践の記録 一つ心」発行